

「理科室のおじさん」を訪ねて2 日立市立中里小中学校

今回は、中里小中学校（皆川渉校長）の小比賀敬さんです。

小比賀さんは、今の香川県高松市の出身です。子どもの頃は、豊かな自然の中でよく遊び、家の近くの川でウナギを穴釣りですったこともあるそうです。

理科クラブに入る前は、日立製作所で機械加工の生産技術を主な仕事としていました。プログラムを組んで機械加工を行うのですが、他の人ができないような難しい仕事を、いろいろと工夫しながら粘り強く行い信頼も大きかったようです。退職後は産業支援センターでアドバイザーとして機械加工の支援もしてきました。

理科室のおじさんとしては、久慈小、大久保小を歴任し、中里小中学校が3校目です。子どもたちとのふれあいが好きで、子どもたちのためになることだったら、実験準備、後片付けはもちろん、科学おもちゃ作り、パソコンを使った検索など何でもしてきました。特に、教科書には書かれていないけれども関連のある実験などネットを使って検索し紹介するように工夫してきました。また、授業中は、実験後に、どうしてこうなったの、と声をかけるようにしてきたそうです。子どもたちに立ち止まってよく考えて欲しいという思いがあるからです。子どもたちに理科の楽しさを伝えたいという熱い思いを感じました。

理科室には、小比賀さん手作りの科学おもちゃがありました。振り子の原理でアヒルが斜面を降りてくるおもちゃはとてかわいらしくおもしろいです。なぜ動くのかなと疑問に思います。レーシングカーのような車もありました。コースで走らせるそうです。もっといろいろなおもちゃを置きたいのだけれどスペースが狭いことを残念がっていました。子どもたちはそれらを見たり、触れたりすることを通して、理科への興味を深めているように思いました。

中里小中学校は、日立市ではじめて義務教育学校になった学校です。校舎も新しくなり、小学1年生から中学3年生までが同じ校舎で学習しています。小比賀さんがいる理科室には、7年生、8年生、9年生も来ます。理科室のおじさんにも広い知識が求められるのでそれに応えたいと話していました。

最後に、中里小中学校のよさを聞きました。中里小中学校は特認校で学区がなく、日立市内各地から通学しているお子さんが68人います。児童生徒は、豊かな環境の中で、元気よくのびのびと学習しているそうです。めずらしい体験学習も多く、「能」の授業もあります。「高砂や」を歌えるようになり、親族の結婚式で歌ってみんなから大喜びされた卒業生もあるとのこと。また、近くのりんご園で摘果をするという体験学習もあり楽しそうです。

訪問した日は、グラウンド一面に貼られた天然芝の上を走ったり、サッカーをしたりしている児童生徒がいました。気持ちよさそうでした。写真で後ろに見える山もまもなく紅葉し、とてもきれいになるようです。



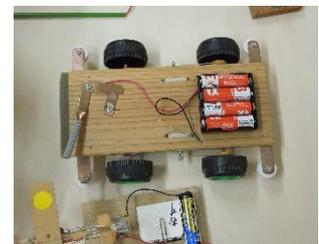
「理科室のおじさん」小比賀敬さん



理科室の掲示物・展示物



科学おもちゃ



天然芝が貼られたグラウンド